

# あいち農産物生産流通レポート

2023年2月号

	ページ
◎ 地域トピックス	
・ あいち型産地パワーアップ事業でJA愛知北が冷蔵庫を整備 (尾張農林水産事務所)	1
◎ 東日本情報	
・ ワンストップ輸出拠点機能の特徴とする新生成田市場 (東京事務所)	2
◎ 西日本情報	
・ 地産地消あいちSDGs推進キャンペーンについて (食育消費流通課)	4
・ 2022年愛知県農業総合試験場の10大成果 (農業総合試験場)	6
◎ フラワーページ	
・ 第43回千葉県フラワーフェスティバルの開催 (東京事務所)	8
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	11
・ 名古屋・東京市場における青果物の2月の見通し	12
◎ 花き	
・ 切花・鉢花の2月の見通し(県内市場)	24

※今月「情報サロン」はありません

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400



## あいち型産地パワーアップ事業でJA愛知北が冷蔵庫を整備

尾張農林水産事務所

JA愛知北では、扶桑町の野菜集出荷場（1988年度建設）が、老朽化したため移転することになり、新たに「JA愛知北扶桑野菜集出荷センター（以下、「センター」という。）」が建設され、2022年10月4日（火）に竣工式が開催されました。

その後、センター内にあいち型産地パワーアップ事業と扶桑町の補助金を活用した冷蔵庫が設置され、11月4日（金）に竣工し、12月から利用が開始されました。

### 1 冷蔵庫導入前の状況

扶桑町の主要農作物である、「ごぼう」、「だいこん」は、担い手の高齢化が進み、将来的には生産者及び栽培面積が大きく減少することが見込まれています。そこで、JA愛知北は産地の維持を目指し、安定した有利な販路として、契約出荷を推進してきました。

夏に収穫される「ごぼう」の市場出荷分は、集出荷場に持ち込んだ当日に出荷されていましたが、契約出荷分については、出荷日及び出荷数量が決まっているため、一時的に集出荷場で保管しておく必要があります。

しかし、移転前の集出荷場には冷蔵庫がなく、契約出荷分の「ごぼう」は、契約数量の確保及び品質保持のため、農家からの週4回の出荷日のうち契約出荷日でない2回分は一旦、冷蔵庫のある江南市の集出荷場で冷蔵保管し、契約出荷日に取りに行行って出荷していました（週に2回）。

### 2 事業活用の効果について

事業を活用し、新しいセンターに冷蔵庫が導入されたことで、江南市の集出荷場と1週間に4往復していた労力と輸送時間が削減されました。

また、冷蔵庫の利用により、「ごぼう」、「だいこん」の品質が保持され、契約出荷先の拡大や今まで廃棄していた規格外品の出荷が可能となります。これにより、出荷量及び農家所得が向上し、産地の維持が図られます。



導入された冷蔵庫

## ワンストップ輸出拠点機能の特徴とする新成田市場

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

新しく生まれ変わった成田市場が 2022 年 1 月に開場しました。輸出手続きのワンストップ化を最大の特徴とする同市場を視察する機会がありましたので、その概要を紹介します。

### 1 生まれ変わるまでの道のり

成田市場は 1974 年に成田市飯仲地区で営業が開始され、千葉県北総地域の流通拠点となってきました。しかし、施設の老朽化や取扱高の減少など様々な課題を抱えるようになり、今後のあり方について検討が進められました。

その中、国家戦略特区の指定を受けた成田市が提案した「エアポート都市構想」にある、卸売市場を活用した輸出拠点化の実現に向けた調査研究が進められ、成田空港隣接地となる成田市天神峰区への移転、再整備をするという結論に達しました。

2019 年 6 月末から建設工事に着手し、途中、台風による工事の遅れや新型コロナウイルス感染症の影響などを受けながら、2022 年 1 月 20 日に開場しました。

### 2 新市場の姿

#### (1) 立地

市場は、成田空港の B 滑走路に隣接しており、東関東自動車道、新空港自動車道の IC に近くアクセスが良いのが特徴のひとつです。さらに、圏央道延伸により市場の東側 2 km の場所に新 IC が 2025 年 3 月に開通する予定となっています。

港にも近いので陸海空の全てが揃っています。



成田市場（本体棟）

#### (2) 建物の配置と特徴

敷地面積は約 9.3ha で、青果棟、高機能物流棟、水産棟からなる本体棟のほか関連食品棟があり、集客施設棟は今後建設予定です。

旧市場にはなかった高機能物流棟が作られ、水産棟には水槽エリアなど新たな機能が加わったことで、本体棟は合計約 2.9ha と旧市場の 2 倍以上の広さとなっています。両端に青果棟と水産棟が配置され、一直線の構造で移動しやすい動線を確保しています（図 1）。

水産棟には民間が設置、運営する 15t の活魚水槽が 4 つ、5t の活魚水槽が 1 つあり、新鮮で活きのいい魚の輸出に役立てられています。

また、いずれの棟も閉鎖型施設であり、高機能物流棟と水産棟は定温管理されることでコールドチェーンを確立しています。

関連食品棟は2022年11月にオープンしました。また、民設民営が予定され、整備の検討が進められている集客施設棟は、海外旅行客等への日本の農水産物の販売や食事の提供だけでなく、農水産物や食文化の情報発信を目的としています。そのほか、空港との間にある防音林の一部を活用し、展望台を設置する構想もあります。

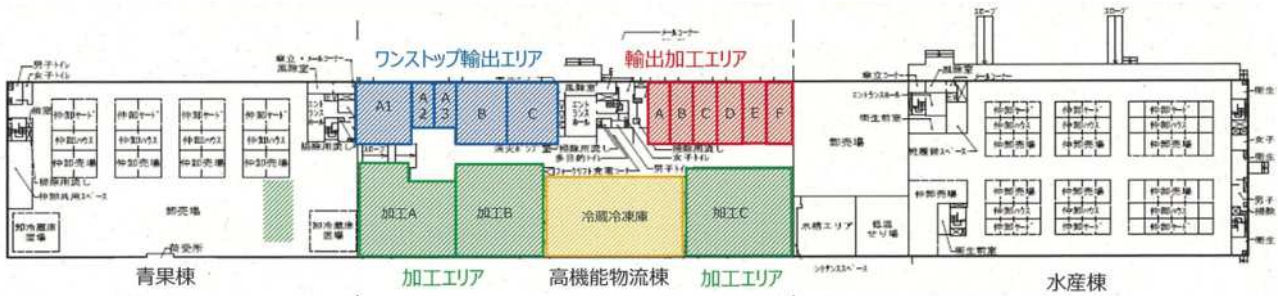


図1 成田市場本体棟（青果棟、高機能物流棟、水産棟）の配置  
（訪問時の配布資料から抜粋）

### （3）高機能物流拠点

高機能物流棟には、最大の特徴であるワンストップ輸出エリアがあります。このエリアの設置により、成田市場は主な輸出手続きを1か所で行うことのできる日本初の輸出機能を持つ卸売市場となっています。

通常は通関や検疫のため荷物の移動が必要で、手続きには4～6日かかりますが、ここでは荷物を動かす必要はなく、仕向地により異なるものの、手続きは3日で済みます。それは、検疫や各種証明書の発行を市場内で行うことによって手続きを迅速に行っていることなどが要因となっています。



高機能物流棟内の様子

輸出に要する時間が短縮されるため鮮度が向上し、さらに、荷物の移動が少ないため移動に伴う傷みの発生率が低くなるとともに、閉鎖型施設のため荷物の衛生管理が可能となって品質向上につながっています。

また、加工エリアでは生鮮品の加工やパッキングを行って付加価値をつけているほか、冷凍冷蔵庫エリアには災害等による長時間停電発生時でも対応可能な非常用発電設備が整備され、農水産物安定供給の使命を果たすための拠点施設となっています。

新市場の開場後、2022年1月～9月の輸出取扱額は約11億円で、前年1月～12月の約1億円をはるかに上回っており、その後も順調に取り扱いが進んでいます。

成田市場は地域へ安定的に生鮮食料品を提供する卸売市場の役割を果たすと同時に、輸出手続きのワンストップ化による生鮮食料品の品質向上を生かして、新鮮な農水産物を世界に発信し、日本の農水産業の発展に貢献することを目標としており、今後の発展が期待されます。

## 地産地消あいちSDGs推進キャンペーンについて

食育消費流通課

本県では、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になっていただくとともに、県産農林水産物をもっと食べたり、利用していただく地産地消の取組である「いいともあいち運動」を1998年度から進めています。

地産地消は、食材の輸送に伴う二酸化炭素の排出を削減し、環境に配慮した消費（エシカル消費）につながるなど、SDGsの推進にも貢献する取組です。

そこで、県民の皆様へ地産地消のより一層の浸透を図るため、今年度から「地産地消あいちSDGs推進キャンペーン」を実施しています。

## 1 「地産地消あいちSDGs推進キャンペーン」について

県民の皆さんに地産地消とSDGsとの関係を分かりやすくPRするとともに、地産地消の実践を促すことを目的として、2005年に開催された愛・地球博の公式キャラクター「モリゾー・キッコロ」をアンバサダーとし、「そのひと口が応援になる。」をキャッチフレーズとして実施します。



啓発資材（ポスター）



啓発資材（リーフレット）



## 2 キャンペーンの内容

## (1) 2022年度の取組

## ア キックオフイベント

キャンペーンを広く周知するため、2022年10月29日に豊田スタジアムで、知事による「地産地消あいちSDGs推進キャンペーン」のキックオフ宣言及び「モリゾー・キッコロ」のアンバサダー任命を行いました。

また、知事と「いいともあいちサポーター」の本田剛史氏（BOYS AND MEN）による対談を行い、それらの様子は東海テレビのニュース枠で放送されました。



キックオフイベントの様子

キックオフイベント来場者や東海テレビ視聴者等に対して、広く地産地消の理解促進を図り、その実践を促すことができました。

## イ いいともあいち地産地消デジタルスタンプラリー

普段の食生活の中でSDGsの推進にも貢献できる「地産地消」の理解促進と実践を促すため、「いいともあいち推進店」となっている飲食店や販売店等 156 店舗を巡る「いいともあいち地産地消デジタルスタンプラリー」を 2022 年 11 月 1 日から 2023 年 1 月 31 日まで実施しました。

期間を通じて、895 人の参加者による 3,132 回のスタンプ獲得があり、多くの県民による地産地消の実践につながりました。



デジタルスタンプラリー（リーフレット）

参加店舗

## ウ いいともあいち情報広場のリニューアル

県民の皆様に向けて地産地消への理解促進を図るため、いいともあいち運動の公式 WEB ページ「いいともあいち情報広場」をリニューアルし、「地産地消で SDGs への貢献」ページを新たに作成するなどして、地産地消が SDGs の推進に貢献する取組であることをわかりやすく PR しました。

## エ 地産地消の関連イベント

関係企業等が行う地産地消関連イベントと連携したキャンペーンの推進により、県民の皆様「地産地消」への理解を深めていただき、普段の生活の中で実践していただけるよう、PR 活動に取り組みました。（表 1）

表 1 地産地消の関連イベント

イベント名	日時	場所	内容
イオンいいともあいちフェア	2022.10.28 ～10.30	イオンモールナゴヤドーム前・イオンナゴヤドーム前店	いいともあいちブースやいいともあいち PR コーナーを設置し、県産農林水産物や加工品等の展示・販売や地産地消と県産農林水産物の PR を実施
愛知県庁本庁舎公開イベント	2022.11.3	愛知県庁本庁舎	
商店街逸品名品テストマーケット	2022.11.4 ～11.5	金山総合駅連絡通路橋	
あいち市町村フェア	2022.11.11 ～11.13	愛・地球博記念公園	

## (2) 2023 年度の取組

さらに広く県民に地産地消の理解促進を図るためのデジタルプロモーションや地産地消を体験いただくデジタルスタンプラリーなどを実施します。

## 2022年愛知県農業総合試験場の10大成果

農業総合試験場

愛知県農業総合試験場では、農業の発展や農家経営の改善のため、新しい品種や高度な栽培技術・飼養技術の開発を行っています。こうした試験研究について、広く県民の皆様にご理解を深めていただくため、農業総合試験場の研究成果の中から、特に優れたものや社会的関心の高いものを各界の選定委員に選んでいただき、2022年の10大成果として公表しましたので紹介します。

## 1 2022年の10大成果

第1位	イノシシしか食べられません！ ーコンクリートブロックを利用した豚熱経口ワクチンの摂取方法を開発ー
第2位	いいとこ取りのナス新品種を開発！ ー多収性で漬物にも向く単為結果性とげなしナスー
第3位	ガラス繊維で環境DNAをキャッチ！ ーLAMP解析とのセットで対象生物の在・不在を現場で判定ー
第4位	真夏の鉢花クルクマを暖房費ゼロで早期出荷！ ー6月出荷できる「低コスト球根出芽法」を開発ー
第5位	スマホで写して、病害虫診断！ ーAIによる画像識別を活用した病害虫診断技術を開発ー
第6位	農業用パワーアシストスーツを開発！ ー収穫作業の身体負担を軽減ー
第7位	排水対策で小麦と大豆収量UP！ ー新技術カットドレンによる排水性向上を検証ー
第8位	LED補光とCO <sub>2</sub> 施用でバラが3割増収！ ー高輝度LEDを効果的に活用ー
第9位	スクミリンゴガイ撃退法を確立！ ー地域に合った防除体系で被害低減ー
第10位	卵の重さをカメラで判定！ ー画像処理を利用した卵重測定技術を開発ー

## 2 選定委員

浅川 晋	名古屋大学大学院生命農学研究科 教授
伊藤 博康	株式会社CBCテレビ報道・情報制作局報道部 専任部長
井上 孝司	ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社 基盤技術研究所 所長
平光 佐知子	生活協同組合コープあいち 参与 (以上、敬称略・五十音順)
仲井 靖	愛知県農業総合試験場 場長



### 3 特徴・傾向

研究成果の中から選定委員が、「実用性」、「新規性」、「社会性」、「普及性」の項目について5段階で評価しました。2022年の10大成果では、労力やコスト削減につながる独自性の高い新技術の開発、生産者の省力化及び販路拡大につながる新品种の開発が上位を占めました。また、スマート農業技術の開発に加え、現地の困りごとを解決する技術実証など、多岐にわたる研究成果10課題を選定しました。これらのうち、上位3課題を紹介します。

第1位：野生イノシシによる豚熱の拡散防止等を目的として散布する豚熱経口ワクチンを、コンクリートブロックを利用し、イノシシに確実に食べさせる方法を開発しました。従来の方ではイノシシより先に小動物等にワクチンを食べられてしまい、イノシシの食べる割合が県内では約14%であったのに対して、本手法では100%となりました。

第2位：ナス新品种「試交17-22」を開発しました。本品種は、①単為結果性（受粉や着果促進剤の処理をしなくても果実肥大する性質）を持つため省力化が可能、②とげが無く生産者は快適に作業ができる、③果皮が比較的柔らかく漬物加工にも向く、④既存の多収性品種と同等の収量を有するといった特徴があります。2023年度から本格的な出荷が開始されます。

第3位：ガラス繊維を使って河川等の水から環境DNA（生物や土壌中の微生物などのDNA）を効率的に濃縮する画期的な技術（SGF法）を開発しました。SGF法は現行より大幅な労力及びコストの削減が可能で、得られたDNAはPCR分析に加えてLAMP分析も適用できます。これにより現場で目的とする生物がいるかどうかを判定できるようになります。

### 4 公表

農業総合試験場のWebページ (<https://www.pref.aichi.jp/nososi/>) で、10大成果の詳細がご覧いただけます。

#### 第1位

イノシシしか食べられません！  
—コンクリートブロックを利用した  
豚熱経口ワクチンの摂取方法を開発—



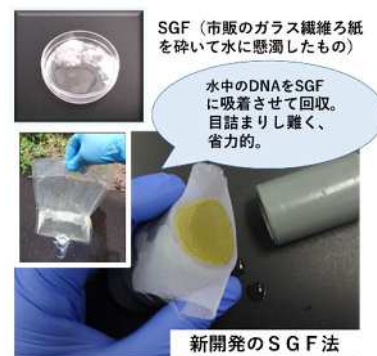
#### 第2位

いいとこ取りのナス新品种  
を開発！  
—多収性で漬物にも向く  
単為結果性とげなしナス—



#### 第3位

ガラス繊維で環境DNA  
をキャッチ！  
—LAMP解析とのセットで  
対象生物の在・不在  
を現場で判定—



## 第 43 回千葉県フラワーフェスティバルの開催

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

第43回千葉県フラワーフェスティバル(主催:千葉フラワーフェスティバル実行委員会(構成:千葉県花き園芸組合連合会、千葉県、公益社団法人千葉県園芸協会))が、2023年1月6日(金)～9日(月)にそごう千葉店で開催されました。当フェスティバルは、県内生産者が出品した千葉県花き共進会や、展示・イベントなどにより花の素晴らしさを広く紹介する行事として毎年開催されています。



正面入り口に展示された  
チーバくんディスプレイ

### 1 千葉県花き共進会について

県内全域から鉢花、観葉、洋らん、切花の合計376点が出品され、花き卸売市場や小売店等の流通関係者、県の専門家により審査され、農林水産大臣賞、千葉県知事賞等を決定しました。当審査基準は、2023年1月27日(金)～29日(日)に開催される日本最大規模の花の展覧会である「関東東海花の展覧会」の審査基準に基本的には準じており、生産者は当展覧会への出品も意識して共進会に臨んでいました。千葉県は、全国有数のシクラメンやカラーの産地で、シクラメンが農林水産大臣賞を受賞しました。また、2021年度に県育成カラー新品種として愛称「Brilliant・Bell」がデビューしており、当展示会で農林水産省関東農政局長賞を受賞しました。



制作：千葉県洋らん生産者組合  
メインディスプレイ



農林水産大臣賞  
シクラメン  
カンパーナシュシュ



農林水産省関東農政局長賞  
カラー  
Brilliant・Bell



展示の様子：カーネーション



展示の様子：LAユリ

## 2 イベントについて

1月7日（土）には、千葉県産花きを使用した「フラワーアレンジメント教室」、野菜やハーブを束ねて作成する「暮らしを彩るベジブーケ®\*レッスン」、押し花はがきなどを作成する「押し花教室」が開催されました。フラワーアレンジメント教室では、丸朝園芸農業協同組合花き部ソニア会が講師となり、千葉県産花きが紹介されていました。

※ベジブーケ®：有限会社伊藤苗木が商標登録しており、野菜・ハーブ・果実・エディブルフラワーを束ねたブーケやアレンジメントのことで、野菜の魅力を楽しみながら贈り物や結婚式を演出するアイテムとして喜ばれています。



フラワーアレンジメント教室  
の様子



ベジブーケ®



押し花教室  
の様子

## 3 展示について

出品物の展示の他、一般社団法人日本ハンギングバスケット\*協議会（事務所：愛知県）の千葉県支部によるハンギングバスケット展示や、千葉県農林総合研究センターの「燃やせる土を使ったシクラメンの栽培」、千葉県立農業大学校の試験研究の成果パネルなどが展示されていました。ハンギングバスケット展示では、装飾園芸の普及や花育の推進を目的に会員が制作した各種ハンギングバスケットの展示がされており、訪れる人の目を楽しませていました。

※ハンギングバスケット：個人の庭や街の花飾として壁などに吊るして楽しむ装飾園芸の技法のことで、屋外用としてコンテナ栽培のため長く花を楽しむことができます。

写真左：ハンギングバスケット

写真右：燃やせる土を使用した  
シクラメン





## 愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ± 1 % 台以下  
 わずか : ± 2 % 台以内  
 や や : ± 3 ~ 5 % 台  
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台  
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

### ○ 名古屋中央卸売市場（品目：ブロッコリー）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年主要産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	愛知産		
2022年実績	8,638	1,753 (20%)	350	248	香川 (20%) 愛知 (20%) 北海道 (14%)
2023年見通し	8,500	—	355	—	
概要と見通し		卸売市場から産地への要望・提言等			
作付面積は、前年並か減少傾向となっている。生育は、年末は前進傾向であったが、年始に雪の影響で後進し、今後の天候次第ではあるが平年並の入荷を見込む。 販売先は量販店が中心であり、他品目と比較して新型コロナウイルスの影響は少ない。 入荷量、価格ともに前年並の見込み。		国内では、量販店向け品種の栽培が中心であり、加工業務用(冷凍品)は海外産が多くを占めている。また、価格の伸び悩みから、量販店向けの数量についても減少傾向である。 資材高騰で厳しい中ではあるが、産地には、引き続き量販店向け品種の数量維持と、加工業務向け品種の栽培に取り組んでいただきたい。			

### ○ 東京都中央卸売市場（品目：ブロッコリー）

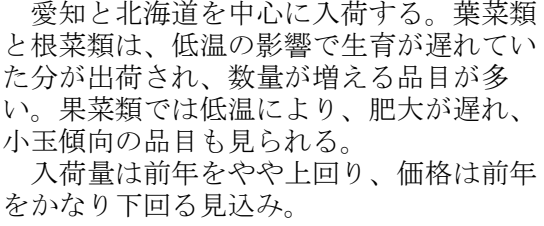
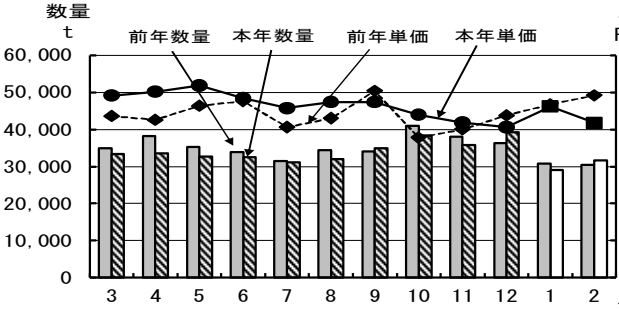
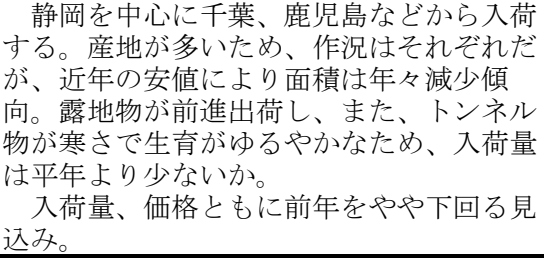
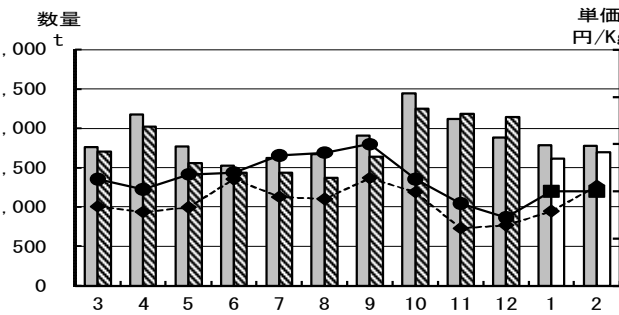
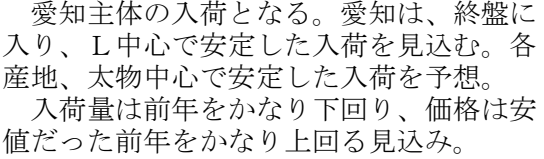
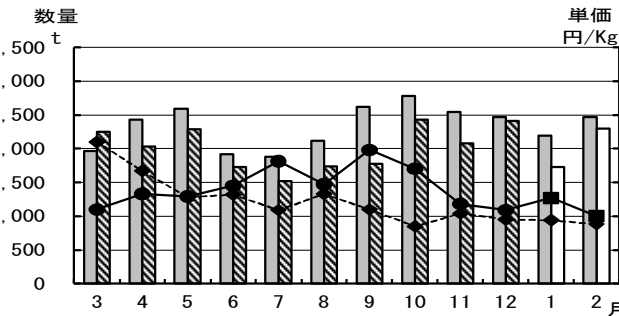
	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年主要産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	愛知産		
2022年実績	35,727	3,656 (10%)	382	255	北海道 (19%) 香川 (17%) 熊本 (13%)
2023年見通し	36,000	—	385	—	
概要と見通し		卸売市場から産地への要望・提言等			
近年、熊本などの九州産地が作付面積を増やしたことで入荷量は年々増加していたが、頭打ち感がある。 愛知産の入荷ピークは1~2月であり、潤沢な入荷が見込まれる。その一方、現状は全国的に生育が前進傾向となっており、量が多まっており、その後の数量不足が懸念される。 入荷量は前年並で、単価も前年並となる見込み。		ブロッコリーは量販店向けの販売がほとんどであり、入荷量が大きく増えた際には業務用に回せず相場が大幅に下落してしまう。その中、愛知県産は品質が高く、顧客からの評価も高いため、精度の高い情報発信に努めて欲しい。 愛知以外の主力産地は20玉規格がほとんどであり、併売やスポットから売り場を確保していくには同じ20玉規格である必要があるため、20玉規格の導入を検討してもらいたい。			

名古屋・東京市場における青果物の2月の見通し

名古屋市中央卸売市場

1月13日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2018年	27,777	287	284	285	294	愛知 28%
	2019年	30,958	212	220	207	207	北海道 21%
	2020年	33,713	194	196	194	190	茨城 10%
	2021年	32,993	211	209	209	213	鹿児島 7%
	2022年	30,405	246	231	252	254	静岡 6%
	5ヵ年平均	31,169	228	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2023年見通し	31,700	209	—	—	—		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
							
だいこん	2018年	1,374	180	179	185	183	静岡 27%
	2019年	1,765	69	84	67	61	千葉 26%
	2020年	1,703	67	64	68	77	鹿児島 21%
	2021年	1,897	74	81	71	74	愛知 9%
	2022年	1,776	106	94	113	118	神奈川 7%
	5ヵ年平均	1,703	95	97	97	99	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2023年見通し	1,700	100	100	100	100		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
							
にんじん	2018年	1,611	202	186	210	218	愛知 95%
	2019年	1,888	85	84	83	89	鹿児島 3%
	2020年	2,130	79	74	75	89	熊本 1%
	2021年	2,071	133	123	131	159	茨城 1%
	2022年	2,465	88	83	88	95	
	5ヵ年平均	2,033	113	106	112	125	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2023年見通し	2,300	100	110	100	90		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
							

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。  
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

1月31日 現在

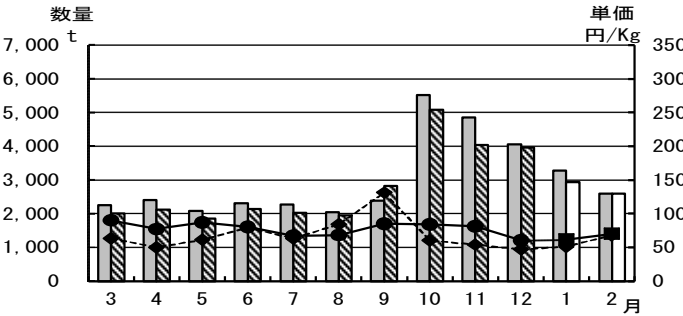
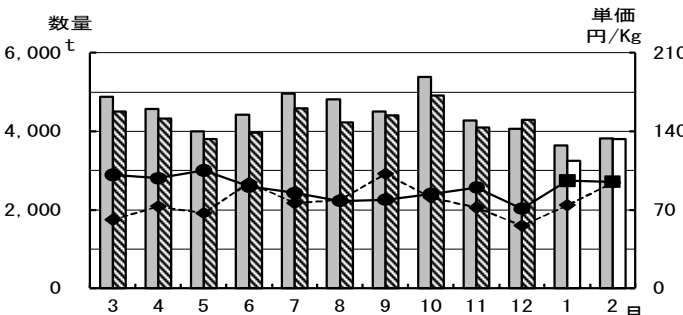
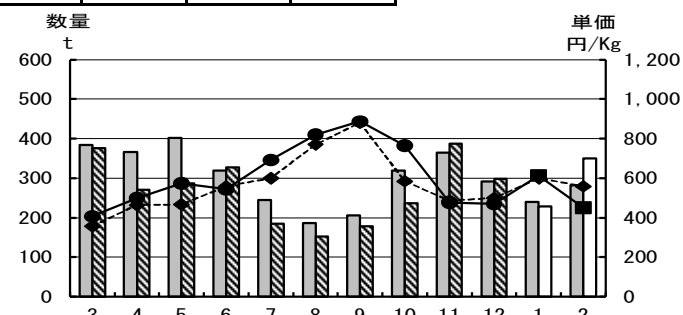
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2018年	107,526	314	312	317	312	茨城 17%
	2019年	114,138	232	242	230	225	千葉 17%
	2020年	122,037	216	213	220	215	愛知 11%
	2021年	114,657	232	234	233	228	北海道 10%
	2022年	105,344	264	253	271	269	神奈川 6%
	5カ年平均	112,740	250	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	108,000	260	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
関東産地、愛知、北海道からの入荷が中心となる。1月下旬の厳しい冷え込みにより果菜類を中心に出荷りは低調となった。2月もしばらくは低温の影響が続くものの、次第に回復するか。 入荷量は少なかった前年をわずかに上回り、価格は前年並となる見込み。							
だいこん	2018年	8,925	173	168	178	176	神奈川 52%
	2019年	9,831	81	93	81	67	千葉 36%
	2020年	11,082	69	63	71	73	徳島 3%
	2021年	9,642	81	84	77	80	鹿児島 2%
	2022年	8,746	107	93	113	118	静岡 2%
	5カ年平均	9,645	100	98	102	100	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	9,000	105	120	105	90	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
神奈川、千葉からの入荷が中心となる。降雨により干ばつ傾向は解消された一方、低温による葉傷み等の品質低下が懸念される。主力の神奈川はピークが続くも、冷え込みで需要が増えると不足感が出るか。 入荷量は少なかった前年をわずかに上回り、価格は前年並となる見込み。							
にんじん	2018年	6,287	178	179	178	176	千葉 74%
	2019年	5,935	101	94	107	104	埼玉 10%
	2020年	6,009	118	115	113	126	茨城 7%
	2021年	5,676	151	141	150	169	鹿児島 3%
	2022年	5,951	94	87	96	100	愛知 2%
	5カ年平均	5,972	129	124	129	135	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	6,000	105	100	105	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
千葉を主力に関東産地からの入荷が中心となる。関東の各産地は肥大良好。千葉はL～2L中心の入荷となり、ピークは終盤に差しかかるものの、残量に不足はない。安定した入荷で相場も安定か。 入荷量は前年並となり、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。							

名古屋市中央卸売市場

1月13日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	2018年	2,527	179	174	182	191	茨城 62%
	2019年	2,712	48	50	49	45	兵庫 21%
	2020年	2,608	60	58	54	70	愛知 10%
	2021年	2,948	50	51	49	51	三重 6%
	2022年	2,590	68	58	79	74	長崎 1%
	5ヵ年平均	2,677	79	77	81	84	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	2,600	70	70	70	70	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、兵庫、愛知などから入荷する。各産地、生育良好で順調な出荷を見込む。下旬には、各産地で入荷減少により相場は上がる予想。量販店や、漬物・加工業務においても、厳しい販売状況が予想される。入荷量は前年並、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p>					
キヤベツ	2018年	2,376	239	236	258	226	愛知 87%
	2019年	3,250	76	94	71	67	三重 4%
	2020年	3,674	57	52	64	57	茨城 4%
	2021年	4,375	64	66	61	61	滋賀 3%
	2022年	3,823	94	93	98	93	
	5ヵ年平均	3,500	95	97	98	91	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	3,800	95	95	95	95	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知主体の入荷となる。愛知は低温、干ばつのため、今後の天気次第では、数量が減る予想。作付面積は平年並。業務の動きが悪く、相場の乱高下はない見込み。入荷量、価格ともに前年並となる見込み。</p>					
ほうれんそう	2018年	290	677	862	701	530	愛知 42%
	2019年	344	455	541	428	403	茨城 33%
	2020年	364	424	421	449	414	静岡 8%
	2021年	396	393	427	397	338	岐阜 6%
	2022年	282	559	582	577	519	徳島 6%
	5ヵ年平均	335	489	550	498	432	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	350	450	500	450	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知を中心に茨城などからも入荷する。12月、1月の低温の影響で生育遅れの分があり、入荷量は順次増えてくる予想。また、後半にかけて気温が上昇し、日照時間も長くなるため、中旬～下旬にかけて入荷は多くなる予想。入荷量は前年を大幅に上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					



東京都中央卸売市場

1月31日 現在

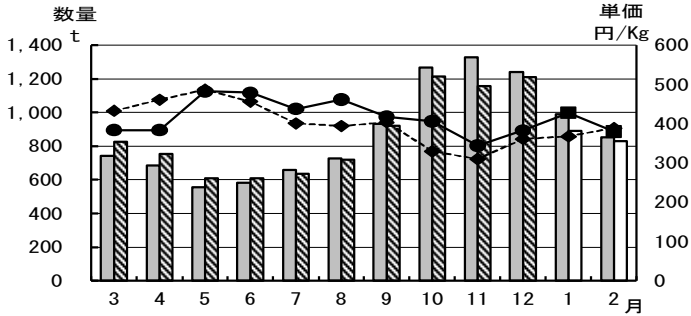
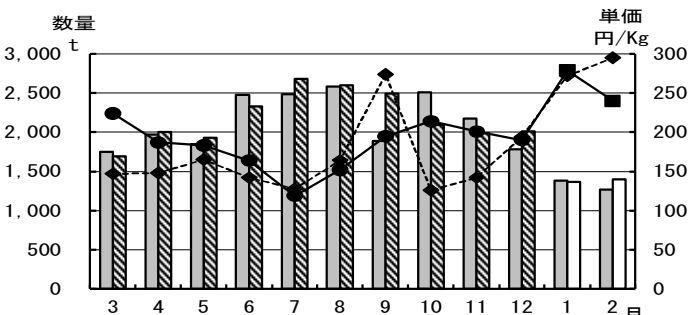
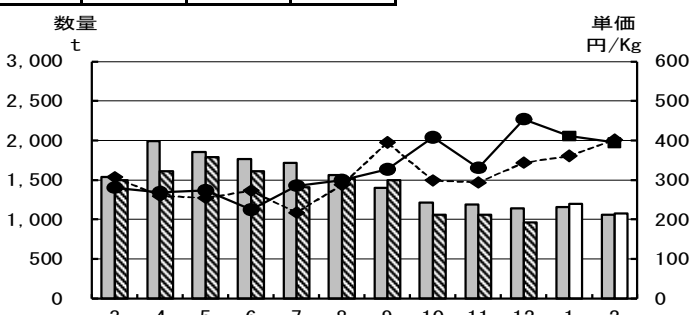
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	2018年	12,466	164	161	156	184	茨城 83%
	2019年	12,476	38	42	41	29	群馬 11%
	2020年	12,222	51	46	48	60	兵庫 3%
	2021年	12,635	31	33	29	31	埼玉 1%
	2022年	12,531	51	40	61	56	和歌山 1%
	5カ年平均	12,466	67	64	67	72	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	12,300	60	60	55	65	
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
い	<p>茨城を中心に、群馬などからの入荷となる。茨城は定期的な降雨により生育順調で肥大も良好。群馬も生育順調でやや前進傾向か。低温で凍るために収穫ができず、上旬の入荷は低調か。 入荷量は前年並となり、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>						
キャベツ	2018年	11,828	252	224	266	280	愛知 63%
	2019年	15,497	80	100	74	68	千葉 23%
	2020年	16,495	59	53	64	60	神奈川 8%
	2021年	16,795	63	66	64	58	茨城 2%
	2022年	15,019	101	100	103	99	静岡 1%
	5カ年平均	15,127	103	102	105	103	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	15,000	100	100	105	95	
べ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
つ	<p>愛知を主力に、千葉、神奈川からの入荷が中心となる。冷え込みにより生育遅れがみられる産地がある。さらに干ばつの影響があり、上旬は数量が伸び悩むも、その後はまとまった入荷となるか。 入荷量、価格ともに前年並となる見込み。</p>						
ほうれんそう	2018年	1,353	625	755	596	505	茨城 40%
	2019年	1,520	422	505	410	355	群馬 31%
	2020年	1,703	403	393	460	362	埼玉 10%
	2021年	1,773	374	424	358	321	千葉 7%
	2022年	1,344	518	535	557	461	栃木 6%
	5カ年平均	1,539	459	511	467	394	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	1,400	500	550	520	430	
ん	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
そ	<p>茨城、群馬、埼玉など関東産地からの入荷が中心となる。主力の茨城始め各産地とも低温の影響はあるものの生育に大きな問題はない。しばらくは入荷量が少なめとなるも、気温上昇により増量する見込み。 入荷量は少なかった前年をやや上回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>						

名古屋市中央卸売市場

1月13日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2018年	709	528	516	550	531	大分 25%
	2019年	846	334	338	342	323	静岡 22%
	2020年	972	303	296	303	310	群馬 11%
	2021年	780	450	440	447	475	鳥取 9%
	2022年	853	389	352	405	424	愛知 6%
	5ヵ年平均 2023年見通し	832 830	393 380	381 400	401 380	405 360	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>大分、静岡、群馬などの各産地から入荷する。大分、静岡、鳥取は平年並の入荷を見込む。愛知の越津ねぎは、遅れていた分が出揃い、増量傾向。白ねぎは、鳥取、大分、静岡などの主産地が揃い、ピークとなる予想。 入荷量、価格ともに前年をわずかに下回る見込み。</p>					
レタス	2018年	1,210	376	413	373	333	兵庫 23%
	2019年	1,437	217	246	217	190	茨城 17%
	2020年	1,791	178	187	188	165	熊本 16%
	2021年	1,605	187	212	191	154	静岡 14%
	2022年	1,271	295	313	303	267	長崎 9%
	5ヵ年平均 2023年見通し	1,463 1,400	241 240	263 250	245 240	213 230	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>兵庫を中心に茨城、熊本などから入荷する。各産地、平年並の入荷を予想。全国的にレタスの面積は減少傾向であり、堅調な販売を見込む。玉流れは、L中心の小玉傾向。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
きゅうり	2018年	1,313	340	407	309	296	愛知 63%
	2019年	1,230	350	372	337	340	宮崎 14%
	2020年	1,234	417	551	362	350	鹿児島 12%
	2021年	1,210	374	433	357	329	高知 10%
	2022年	1,062	402	430	407	366	群馬 1%
	5ヵ年平均 2023年見通し	1,210 1,080	375 395	438 430	352 400	335 355	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知を中心に宮崎、鹿児島、高知の西南暖地から入荷する。上旬は節分のため、価格高になる予想。中旬以降も大きな出荷増は見込めないため、堅調な荷動きとなる見込み。 入荷量、価格はともに前年並の見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

1月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2018年	4, 248	479	467	464	523	千葉 33%
	2019年	4, 544	330	331	349	308	埼玉 22%
	2020年	4, 999	249	242	248	259	茨城 14%
	2021年	3, 922	517	496	514	553	群馬 11%
	2022年	4, 365	339	295	369	364	栃木 8%
	5カ年平均	4, 416	375	359	382	393	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	4, 500	330	280	350	360	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉、埼玉、茨城など関東産地からの入荷が中心となる。いずれの産地も生育順調。主力の千葉はやや前進傾向。冷え込みにより葉枯れ等がみられる地域があるものの、潤沢な入荷となる見込み。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>					
し	2018年	5, 475	362	393	368	314	静岡 30%
	2019年	6, 854	200	228	198	173	長崎 16%
	2020年	7, 736	168	172	177	155	茨城 15%
	2021年	6, 945	173	195	174	141	香川 10%
	2022年	5, 439	291	317	300	253	福岡 6%
	5カ年平均	6, 490	229	250	234	271	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	5, 800	240	270	250	200	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>静岡、長崎、茨城、香川などからの入荷となる。産地によりみられた干ばつの影響は弱まった一方、冷え込みにより生育は遅延気味。低温の影響でしばらくは落ち着いた出方となるか。 入荷量は少なかった前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
き	2018年	5, 004	366	425	346	312	宮崎 33%
	2019年	4, 451	367	379	367	355	千葉 18%
	2020年	4, 663	450	601	381	387	群馬 18%
	2021年	4, 797	399	465	380	338	茨城 11%
	2022年	4, 186	417	450	429	371	高知 11%
	5カ年平均	4, 620	399	464	379	352	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	4, 100	430	590	380	320	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>宮崎等の西南暖地や千葉、群馬等の関東産地からの入荷が中心となる。各産地とも天候不順により数量は伸び悩み、産地によっては花飛びもみられる。しばらく数量の少ない状況が続く見込み。 入荷量は少なかった前年をわずかに下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

1月13日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
なた	2018年	412	437	439	439	熊本	52%	
	2019年	390	439	445	448	愛知	44%	
	2020年	448	444	455	442	高知	4%	
	2021年	428	419	450	414			
	2022年	355	405	395	405			
	5ヵ年平均 2023年見通し	407 380	430 400	438 410	429 400	423 390	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
す	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	<p>熊本、愛知を中心に入荷する。厳寒期の出荷であり、日照量が多ければ、気温がやや低くても出荷量は増える見込み。熊本はL、M中心の玉流れ。燃油高騰によるハウス内の暖房節約のため、L・M比率が高くなり箱数が出ない予想。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年並となる見込み。</p>							
トマト	2018年	972	336	311	352	355	熊本	46%
	2019年	1,066	320	298	319	349	愛知	25%
	2020年	1,075	361	386	357	346	三重	12%
	2021年	1,072	258	244	265	274	岐阜	12%
	2022年	842	309	298	317	320	大分	3%
	5ヵ年平均 2023年見通し	1,005 1,000	317 300	308 300	322 300	329 300	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
ト	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	<p>熊本、愛知、三重、岐阜を中心に入荷する。各産地、小玉傾向で入荷量は落ち着いた状況が予想される。価格は1月よりも強めの状況で、荷動きは低調の見込み。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>							
ミニトマト	2018年	374	745	759	738	736	熊本	69%
	2019年	405	711	684	708	749	愛知	24%
	2020年	427	741	789	713	733	和歌山	5%
	2021年	477	591	565	608	602	宮崎	2%
	2022年	512	635	610	645	659		
	5ヵ年平均 2023年見通し	439 480	679 635	674 610	678 650	691 650	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
ト	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	<p>熊本、愛知を中心に入荷する。下旬に向けて、気温低下や日照量減少により、生育停滞する予想。出荷量が減少するため、価格は少しずつ上がる予想だが、急激な価格変動も起こらない見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並の見込み。</p>							

東京都中央卸売市場

1月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	2018年	1,904	513	503	506	540	高知 59%
	2019年	1,918	492	520	493	469	福岡 20%
	2020年	2,126	491	509	480	486	熊本 12%
	2021年	2,298	470	527	451	432	佐賀 3%
	2022年	2,047	467	452	475	474	栃木 2%
	5カ年平均	2,059	486	503	480	478	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	2,000	480	510	470	460	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>高知を主力に福岡や熊本など九州からの入荷が中心となる。各産地とも1月の数量は少なく、低温で生育速度は遅いことから、2月は少なめながら安定した入荷が続く、気温が上がれば増量となるか。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p>					
ト マ ト	2018年	4,972	378	359	392	387	熊本 33%
	2019年	4,989	377	360	376	394	栃木 24%
	2020年	4,796	428	442	425	416	愛知 14%
	2021年	5,448	313	297	323	323	茨城 5%
	2022年	4,599	368	356	374	376	静岡 4%
	5カ年平均	4,961	371	361	377	378	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	4,700	380	380	370	390	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、栃木、愛知からの入荷が中心となる。各産地とも生育はおおむね順調。主力の熊本は小玉傾向。各産地とも低温により数量が少なめの状況が続く見込み。気温が上がれば入荷量は増えるか。 入荷量は少なかった前年をわずかに上回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	2018年	1,486	701	716	696	683	熊本 44%
	2019年	1,507	689	661	675	736	愛知 18%
	2020年	1,507	742	793	709	717	千葉 11%
	2021年	1,729	564	553	571	571	宮崎 9%
	2022年	1,636	623	631	634	605	静岡 7%
	5カ年平均	1,573	660	667	654	659	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	1,600	620	640	610	610	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知などからの入荷となる。各産地とも生育は概ね順調で着果に問題はない。低温の影響で生育速度は遅めの状況がしばらく続く見込み。気温が上がれば、入荷量がまとまるか。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年並となる見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

1月13日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2018年	382	737	757	742	677	鹿児島 60%
	2019年	367	669	689	671	637	宮崎 26%
	2020年	323	824	810	812	790	高知 13%
	2021年	382	696	725	694	670	沖縄 1%
	2022年	326	773	755	794	737	
	5ヵ年平均	356	737	745	739	699	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	320	750	720	790	740	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>鹿児島、宮崎、高知からほぼ全量を入荷する。各産地、冷え込みから肥大が遅れ、数量が少なく推移する予想。下旬に向けては、数量回復から価格も下がる見込み。 入荷量は前年並で、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>					
ばれいしょ	2018年	2,547	144	136	151	148	北海道 55%
	2019年	2,501	118	117	115	119	鹿児島 40%
	2020年	3,150	99	87	106	104	長崎 5%
	2021年	2,376	250	231	253	279	
	2022年	2,555	262	249	262	277	
	5ヵ年平均	2,626	170	160	173	181	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	2,600	150	140	150	160	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、鹿児島を中心に長崎からも入荷する。北海道は、貯蔵物からの計画出荷でL中心の予想。鹿児島は、長島地区が2L、L中心で、離島は平年より生育が遅れている。長崎は、ほぼ終盤。 入荷量は前年並、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
たまねぎ	2018年	5,519	104	102	102	115	北海道 86%
	2019年	6,239	129	126	136	124	静岡 12%
	2020年	6,922	78	83	75	78	中国 1%
	2021年	6,174	89	87	89	97	愛知 1%
	2022年	5,293	170	155	179	187	
	5ヵ年平均	6,030	112	109	114	117	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	6,200	110	110	110	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に静岡などから入荷する。北海道はL大中心で、計画的な出荷を予想。静岡は干ばつ、冷え込みで遅れた1月分が、2月以降に出荷されピークになる見込み。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

1月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2018年	1,358	757	802	768	672	宮崎 45%
	2019年	1,442	696	727	709	651	茨城 22%
	2020年	1,277	838	823	827	651	高知 18%
	2021年	1,513	733	782	721	684	鹿児島 14%
	2022年	1,375	795	813	837	733	沖縄 1%
	5カ年平均	1,393	762	788	770	678	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	1,300	800	820	800	780	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>宮崎など西南暖地と茨城からの入荷が中心となる。西南暖地は各産地とも低温のため、生育は緩慢で入荷量は多くない。茨城も緩慢な生育に加えて、作付減少で量を減らす。総じて出回りは少なめと見込む。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並となる見込み。</p>					
<p>北海道を中心に、鹿児島、長崎からの入荷となる。北海道は干ばつ等の影響で、小玉傾向で入荷量は少なめ。鹿児島は小玉傾向が心配されたが、降雨により解消し肥大良好。総じて入荷量は、多くない見込み。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高騰した前年を大幅に下回る見込み。</p>							
じゃがいも	2018年	7,410	129	128	134	122	北海道 63%
	2019年	7,422	106	110	104	104	鹿児島 33%
	2020年	8,286	90	87	90	94	長崎 4%
	2021年	6,300	235	233	235	241	
	2022年	6,341	252	247	253	257	
	5カ年平均	7,152	156	154	156	157	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	6,900	160	180	160	140	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に、鹿児島、長崎からの入荷となる。北海道は干ばつ等の影響で、小玉傾向で入荷量は少なめ。鹿児島は小玉傾向が心配されたが、降雨により解消し肥大良好。総じて入荷量は、多くない見込み。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高騰した前年を大幅に下回る見込み。</p>					
<p>北海道を中心に、静岡などからの入荷となる。貯蔵からの入荷となる北海道は、大玉傾向も量は多くない。静岡は低温等による生育の停滞や、降雨による収穫作業の遅れがみられる。総じて平年並には出回るか。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は高騰した前年を大幅に下回る見込み。</p>							
たまねぎ	2018年	10,294	121	118	124	122	北海道 75%
	2019年	9,062	154	154	163	145	静岡 16%
	2020年	11,194	82	87	82	78	中国 5%
	2021年	9,993	105	105	104	107	長崎 1%
	2022年	8,470	208	200	208	219	
	5カ年平均	9,803	130	129	132	130	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	9,900	120	130	120	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に、静岡などからの入荷となる。貯蔵からの入荷となる北海道は、大玉傾向も量は多くない。静岡は低温等による生育の停滞や、降雨による収穫作業の遅れがみられる。総じて平年並には出回るか。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は高騰した前年を大幅に下回る見込み。</p>					
<p>北海道を中心に、静岡などからの入荷となる。貯蔵からの入荷となる北海道は、大玉傾向も量は多くない。静岡は低温等による生育の停滞や、降雨による収穫作業の遅れがみられる。総じて平年並には出回るか。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は高騰した前年を大幅に下回る見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

1月17日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2018年	7, 115	431	422	432	419	青森 19%
	2019年	7, 715	423	401	411	443	静岡 15%
	2020年	7, 083	427	406	421	421	愛媛 14%
	2021年	7, 865	402	389	410	419	フィリピン 14%
	2022年	7, 075	464	439	476	489	愛知 10%
	5ヵ年平均 2023年見通し	7, 371 6, 400	429 430	— —	— —	— —	— —
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>かんきつ、りんご、いちごなどが主な品目となる。かんきつは、九州、愛媛がやや少ない予想。みかんは、静岡、愛知は表年ではあるが、12月初旬の雨で正品率が下がり、入荷量が少なくなる見込み。 入荷量、価格ともに前年をかなり下回る見込み。</p>						
りんご	2018年	1, 476	325	319	329	331	青森 97%
	2019年	1, 843	285	286	292	279	秋田 2%
	2020年	1, 494	329	327	328	336	長野 1%
	2021年	1, 929	263	272	259	264	岩手 1%
	2022年	1, 366	364	359	367	368	
	5ヵ年平均 2023年見通し	1, 622 1, 600	308 300	309 300	310 300	310 300	
ご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>青森が主産地となる。他の東北産も残る中であるため、300円/kgを維持することが難しい販売状況。かんきつ類の数量が少なく単価高のため、りんごの売場は縮小しない予想。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>						
いちご	2018年	785	1, 292	1, 437	1, 278	1, 138	愛知 60%
	2019年	720	1, 533	1, 507	1, 539	1, 567	熊本 25%
	2020年	774	1, 360	1, 538	1, 348	1, 218	鹿児島 7%
	2021年	784	1, 420	1, 415	1, 431	1, 413	宮崎 2%
	2022年	723	1, 590	1, 845	1, 616	1, 378	佐賀 2%
	5ヵ年平均 2023年見通し	757 750	1, 435 1, 300	1, 544 1, 200	1, 438 1, 300	1, 339 1, 400	
ご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>愛知、熊本を中心に鹿児島などからも入荷する。愛知は2月上旬以降、ピークとなる予想。九州産地は1月上～中旬に増量期で、気温が高いため、やや前進傾向か。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>						



東京都中央卸売市場

1月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2018年	32,174	489	475	503	494	青森 17%
	2019年	33,065	483	464	486	506	静岡 16%
	2020年	32,198	494	484	500	498	愛媛 15%
	2021年	34,315	468	449	474	492	栃木 7%
	2022年	30,205	540	506	548	581	熊本 7%
果	5ヵ年平均	32,391	494	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
果	2023年見通し	31,000	500	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	りんご、みかん、いちごを中心に入荷。みかんは静岡産が中心となり、入荷量は裏年だった前年より多いが、大玉傾向。九州地域の不知火はハウスがピークとなり露地へと切り替わる。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。						
りんご	2018年	6,403	305	300	308	310	青森 96%
	2019年	6,610	277	280	280	272	山形 2%
	2020年	5,828	344	346	343	344	長野 1%
	2021年	7,009	274	277	272	272	
	2022年	5,334	362	360	361	364	
りんご	5ヵ年平均	6,237	309	309	310	309	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
りんご	2023年見通し	6,000	320	315	320	325	
りんご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	青森の貯蔵品を中心に入荷する。主力となる「ふじ」は、凍霜害の影響で少なかった前年よりも入荷量が多いものの、下位等級が多くなる見込み。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。						
いちご	2018年	4,624	1,337	1,388	1,336	1,270	栃木 49%
	2019年	4,112	1,513	1,489	1,521	1,530	福岡 15%
	2020年	4,648	1,431	1,627	1,401	1,288	茨城 12%
	2021年	4,630	1,411	1,415	1,413	1,403	静岡 10%
	2022年	4,550	1,533	1,619	1,553	1,436	佐賀 4%
いちご	5ヵ年平均	4,513	1,443	1,508	1,443	1,382	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
いちご	2023年見通し	4,650	1,450	1,500	1,450	1,400	
いちご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	栃木を中心に福岡、茨城などから入荷する。1番果から2番果への端境期は無く安定した入荷となり、2番果のピークは2月上中旬となる見込み。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をやや下回る見込み。						

## 切花・鉢花の2月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 2月1日現在）

単位：千本、円/本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ く	実 績	2018年	1, 6 7 6	4 5	
		2019年	1, 4 9 4	5 4	
		2020年	1, 2 6 4	4 3	
		2021年	8 1 0	3 1	
		2022年	1, 0 6 8	5 0	
	5カ年平均		1, 2 6 2	4 6	
	2023年見通し		1, 0 0 0	5 0	
概要	愛知中心に入荷する。作付を減らしており、入荷は多くなく、葬儀需要の上位等級中心に引き合いが強くなる見込み。				
小 ぎ く	実 績	2018年	9 1 2	3 7	
		2019年	9 5 5	3 1	
		2020年	8 7 0	3 1	
		2021年	4 4 5	3 4	
		2022年	7 1 4	3 2	
	5カ年平均		7 7 9	3 3	
	2023年見通し		7 0 0	3 5	
概要	沖縄中心の入荷。前年より作付を減らしており、入荷量は少ない見込み。平年より強い価格で動きそうである。				
カ ー ネ ー シ ョ ン	実 績	2018年	9 2 9	4 3	
		2019年	1, 0 5 3	3 6	
		2020年	8 5 0	4 2	
		2021年	6 0 4	3 5	
		2022年	7 9 5	4 4	
	5カ年平均		8 4 6	4 0	
	2023年見通し		7 5 0	4 5	
概要	愛知を中心に入荷する。輸入品は便の不安定さや為替の関係で、大きな入荷は計画されていない。全体量としては微減予想。業務関係は引き続き厳しく、家族向けイベントに期待したい。				
か す み そ う	実 績	2018年	1 6 7	8 6	
		2019年	1 6 6	6 6	
		2020年	1 4 5	7 6	
		2021年	1 1 8	5 2	
		2022年	1 1 9	1 0 6	
	5カ年平均		1 4 3	7 7	
	2023年見通し		1 1 0	1 0 5	
概要	和歌山、高知、熊本から入荷する。前進気味の出荷となっているが、2月は低温気味に推移しそうなことから、入荷は少なめが予想される。				

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆ り	実績	2018年	224	199	
		2019年	235	162	
		2020年	235	163	
		2021年	133	163	
		2022年	191	181	
	5カ年平均		204	174	
	2023年見通し		180	170	
概要	オリエンタルは高知、宮崎、埼玉、愛知からの入荷。作付から見ても入荷は多くなく、ダラダラとした出荷が見込まれる。鉄砲、LAはやや少ない入荷となりそう。				
洋 ら ん	実績	2018年	364	96	
		2019年	390	77	
		2020年	362	87	
		2021年	161	96	
		2022年	255	115	
	5カ年平均		306	92	
	2023年見通し		250	115	
概要	高知、徳島、愛知、鹿児島や輸入が入荷する。デンファレ及びオンシジウムは、中国の春節需要の影響で2月前半は少ない見込み。シンビジウムは横ばい状況が続き、カトレアは厳寒で減少し、コチョウランも国産は入荷減、輸入は横ばいの見通し。				
ば ら	実績	2018年	654	83	
		2019年	422	102	
		2020年	508	87	
		2021年	310	83	
		2022年	485	91	
	5カ年平均		476	89	
	2023年見通し		480	90	
概要	愛知、岐阜、三重を中心に入荷。国産物は、引き続き燃油等経費高騰で生産に影響をもたらしてきている。輸入品も為替は多少の落ち着きがみられるが、依然円安の状況であり、「フラワーバレンタイン」といった世界的なイベントもあり、輸入商社の動きも厳しい。入荷量は多くは見込めず、前年並を予想。				
枝 の	実績	2018年	1,519	49	
		2019年	1,543	47	
		2020年	1,363	51	
		2021年	787	54	
		2022年	1,216	59	
	5カ年平均		1,286	51	
	2023年見通し		1,150	60	
概要	桃の時期に入り、10日頃から徐々に出荷が増えて20日の週にピークを迎えるが、数量は年々減少している。桃の出荷に合わせて、ミモザの出荷も始まり、昨今引き合いが強い品目となっているが、今年も強い引き合いが見込まれる。				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
エ リ	実績	2018年	5, 581	194	
		2019年	7, 271	190	
		2020年	6, 470	245	
		2021年	4, 463	255	
		2022年	4, 515	222	
	5ヵ年平均	5, 660	219		
	2023年見通し	4, 500	222		
カ	概要	<p>入荷量は前年より減少か。生産量減と日照不足による開花遅れ等で入荷量は減少の見込み。販売動向は、人気品種の3〜3.5号ポットを中心に安定的な販売が予想される。近年は、生産される荷主が限定化されてきており、生産コスト上昇による生産調整を余儀なくされる状況。今後も絶対数が増える見通しが立たない。</p> <p>前年2月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位新潟（52.9%）、2位静岡（35.53%）、3位長野（9.1%）となっている。</p>			
プ ム ラ	実績	2018年	223, 289	84	
		2019年	194, 405	91	
		2020年	210, 600	85	
		2021年	198, 013	109	
		2022年	193, 882	84	
	5ヵ年平均	204, 038	90		
	2023年見通し	193, 000	84		
ラ	概要	<p>入荷量は前年並の見込み。前年同様、5号以上の商品は年々減少傾向である。3〜4号の商品は概ね前年並の見込みで、2月後半からの卒園式需要が高まるまでは、低価格で推移すると予想。</p> <p>前年2月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（41.4%）、2位埼玉（13.9%）、3位栃木（9.4%）となっている。</p>			
チ ュ ー リ ッ プ	実績	2018年	29, 409	146	
		2019年	21, 481	169	
		2020年	30, 814	140	
		2021年	30, 545	198	
		2022年	33, 774	182	
	5ヵ年平均	29, 205	167		
	2023年見通し	33, 500	179		
プ	概要	<p>入荷量は前年より減少か。鉢物の主要生産者の作付減少傾向が要因。サイズ別では、4号、5号が中心になり、6号以上がかなり少ない見込み。芽出しポットは前年並。</p> <p>前年2月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（36.9%）、2位埼玉（23.3%）、3位茨城（19.9%）となっている。</p>			

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
サイネリア	実績	2018年	58,896	229	
		2019年	49,984	267	
		2020年	43,860	260	
		2021年	49,629	292	
		2022年	41,473	257	
	5カ年平均		48,768	260	
	2023年見通し		40,000	250	
概要	<p>入荷量は昨年より減少か。生産量はやや減少しているが、開花が遅れている産地もある。また、卒業、卒園等の需要が高まる2月下旬から3月上旬頃まで例年相場が厳しきこともあり、出荷の時期を調整している産地もある。コロナの巣籠り需要も落ち着きを見せており、昨年より相場は厳しい予想。</p> <p>前年2月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位香川(26.3%)、2位埼玉(17.6%)、3位愛知(15.0%)となっている。</p>				
マーガレット	実績	2018年	51,402	172	
		2019年	51,910	202	
		2020年	52,516	200	
		2021年	51,479	208	
		2022年	44,105	212	
	5カ年平均		50,282	198	
	2023年見通し		48,000	200	
概要	<p>入荷量は前年より増加か。寒さに強いことと品種バラエティが増えた事により、生産地・数量とも増加傾向にある。4号サイズだけでなく、ガーデニング向けの3.5号ポットの作付も多く市況は安定するが、鉢サイズの縮小に伴い平均単価は若干の下落とみている。</p> <p>前年2月の主要県の集荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(28.4%)、2位静岡(22.2%)、3位岐阜(19.3%)となっている。</p>				
デンドロビウム	実績	2018年	24,597	653	
		2019年	23,326	593	
		2020年	20,587	602	
		2021年	15,034	718	
		2022年	16,678	641	
	5カ年平均		20,044	636	
	2023年見通し		15,700	637	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。前年同様、7号以上のサイズは少ない。サイズ別では、4号～5号が中心になる見込み。</p> <p>前年2月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(44.8%)、2位高知(21.4%)、3位岡山(17.0%)となっている。</p>				



## いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.596  
2023年2月発行  
農業水産局農政部食育消費流通課  
〒460-8501  
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号  
電話 (052) 954-6434